

第7回福光地域学校統合検討委員会（会議記録）

【日時】令和7年11月10日（月）開会：午後7時00分 閉会：午後8時32分

【場所】南砺市役所 別館3階大ホール

【出席委員】 齋藤 史朗 委員長 得能 金市 副委員長 北島 清 委員
高瀬 須美夫 委員 中田 健一 委員 上野 幸生 委員
渡辺 史男 委員 高田 寧 委員 天池 哲忠 委員
嶋 潤之介 委員 吉野 弥生 委員 幅田 向志 委員
幅田 智恵 委員 戸成 博宣 委員 船藤 幸輔 委員
舘 英二 委員 坂本 博昭 委員 久恵 文子 委員
酒井 由美子 委員 水口 賢 委員 谷村 恵子 委員
片岸 亮 委員代理（片岸 梨香 委員）

【事務局員】 教育長 松本 謙一 教育部長 氏家 智伸
教育総務課長 上野 容男
教育総務課副参事 山本 佳和 教育総務課主幹 小谷 篤史
教育総務課副主幹 青能 順子 教育総務課主任 井上 健

【会議要点】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶 齋藤委員長
- 3 第6回検討委員会（令和7年10月14日）議事録について
- 4 協議事項
 - （1）統合小学校・統合中学校の使用する校舎に関して
 - ・統合小学校の校舎は福光中部小学校、統合中学校の校舎は吉江中学校のものを使用する方向で進めていくことを確認した。
 - ・上記の案をもとに、12月中に教育委員会で提言書の草案を作成し、検討委員に送付する。
 - ・上記の案については、次回の第8回検討委員会を開催するまでの間に、各団体への確認、周知期間を設ける。その上で、第8回検討委員会で統合校の使用する校舎を決定の上、提言書の内容を協議する。
- 5 次回委員会の日程 令和8年1月中を予定
- 6 副委員長挨拶 得能副委員長

【会議記録詳細】

1 開会

2 委員長挨拶

(委員長)

これまで協議を重ね、いよいよ大詰めの回になったと思います。本日も最後までよろしくお願いします。

3 第6回検討委員会（令和7年10月14日）議事録について

(事務局)

- 資料1に沿って説明 -

(委員長)

今ほどの事務局からの説明に、何か質問はありますか。

(委員E)

福光東部小学校育友会です。第6回検討委員会での協議を受け、10月29日に東部小学校下の各種団体の約20名で話し合いました。

今思い返せば、学校統合検討委員会という名の下で、統合を前提に話が進んでおり、一番の当事者である保育園などの方々の意見が一切採用されていないのではないのでしょうか。我々東部小学校下の意見としては、今回の学校統合の話は一度ゼロにしてほしいと思っています。それは、あまりにも時間が短く、協議の展開が早すぎるため、考える余裕がないからです。事務局から色々な資料を出していただきましたが、我々も資料をもとにどのように判断すればよいのか全く分かりません。

また、小学校低学年の子どもを抱える親の立場からすれば、中部小学校下に住んでいる人であれば、小学校は中部小学校であってほしいし、東部小学校下に住んでいる人であれば、小学校は東部小学校であってほしいはずです。スクールバスが出されようが、遠い所に子どもを行かせたくないのは、親の気持ちとして当然だと思います。

このまま結論が出てしまうと、しこりが残るのではないのでしょうか。ですので、統合時期の再考や、そもそも、小学校・中学校ともに統合する必要があるのかなど、そのような話し合いをもう少し時間をかけて行っていただきたい。東部小学校下としては、このような方向性で結論を出しましたので、このことを踏まえ、話し合いを進めていただきたいというのが私どもの希望です。

(委員長)

今ほどのようなご意見は、協議事項で出していただければと思います。資料についてのご質問、ご意見があればお願いします。

(委員M)

福光地域づくり協議会です。事前送付資料の「統合小学校と統合中学校の使用する校舎に対する意見」の箇所について訂正があります。

「中学校の意見はまとまらなかった」というのは正しいですが、小学校についても「最終的に意見はまとまらなかった」ので、そのように訂正させてください。

(教育長)

福光地域づくり協議会においては、前回の検討委員会までは、小学校も中学校も意見がまとまらなかったということですね。

4 協議事項

(1) 統合小学校・統合中学校の使用する校舎に関して

(委員長)

前回の第6回検討委員会でそれぞれの団体から意見を出していただき、それをまとめた資料もお手元にあります。前回の検討委員会の後に、学校見学をされた委員や、それぞれの地域や団体に持ち帰ってお話をされた委員もいらっしゃると思います。

前回からご意見が変わらない団体は結構ですので、ご意見が変わった団体や、ご意見の修正がある団体からご発言ください。

(委員B)

福光南部小学校教育後援会です。福光南部小学校育成会とは異なるかもしれませんが、私が考えたことを申し上げます。

まず、前提として、小・中学校を福光地区か吉江地区のどちらかに寄せると、住民感情から地域の分断を招くのではないかと思います。参考資料に比較表がありますが、これは、広い、近い、使いやすいといった物理的な話であり、実際に決めるのは感情を持った人間ですので、この比較表だけでは決まらないと思います。

そして、学校というのは、児童生徒の学びの場としての役割だけではなく、地域の宝でもあります。学校がなくなるということは、コミュニティの輪がなくなることであり、喪失感だけが残ります。卒業生にしても、自分が通っていなかった学校に愛着心は持てないと思います。

教育関係者は、「そもそも、学校というのは、地域住民の協力なくしては成り立たない」と言います。特に、地域でのふるさと学習の推進や、伝統文化の継承に、学校は欠かせません。だからこそ、福光地域全体で学校に協力できる体制を作ることが必要です。以上のことから、福光地域全体の発展を考え、両地区に1校ずつ配置し、地域全体のバランスを取ることが一番よいと考えます。

中学校に関しては、第一に利便性が高いことと、福光中学校よりも建設年次が新しいということを考え、吉江中学校がよいと思います。小学校に関しては、小学校と中学校で地区を分けるという考えですので、中部小学校です。中部小学校は、改修が終了してから間もなく新しいですし、広くて教室に余裕があり、通常学級や特別支援学級の適正な配置ができると思います。それから、中学校が吉江中学校となれば、現在の福光中学校の有効活用も想定できます。放課後児童クラブなどの子どもが集まる場所を整備するほか、今の福光福祉会館の機能を福光中学校に移設する選択肢も考えられます。

(委員長)

前回の検討委員会では、中学校は福光中学校というご意見だったのが、吉江中学校に変わったということですね。同じように、ご意見が変わったところがあればお願いします。

(委員L)

喜志麻保育園父母の会です。どの校舎を使うかについての意見は前回から変わっていませんが、新しく出た意見を紹介します。

「中部小学校と福光中学校に統合し、そこを教育の拠点として充実させればよい」という意見の人がいて、具体的に4つの意見を挙げられました。

1つ目は、「福光地域には屋内でじっくりと遊べる施設がないので、冬でも遊べるような施設を、旧南砺福光高校を活用して作れないか」というもの。2つ目は、「大きなイベントを開催するに当たり、駐車場の確保が容易だから」というもの。3つ目は、「習い事をさせたいけど、送迎できずに習い事ができないという意見も聞くので、旧南砺福光高校を活用し、アフタースクールやこども食堂を設置すれば、学校が終わったら歩いていける距離にあるので、親の希望も叶えられる」というもの。そして、4つ目は、「共働きの家庭が安心して18時頃まで預けられる施設がほしい」というものでした。まとめると、「子どもには色々な勉強や運動や食育を受けさせたい。そのような親の希望をまとめて叶えられる施設がほしい」ということで、冒頭の中部小学校と福光中学校に統合すればよいのではないかと意見になったということです。

一方で、「中部小学校と吉江中学校に分散させてはどうか」という意見も追加でありました。小・中学校を片方の校区に集約したほうが、兄弟姉妹がいた場合に送迎が楽だというメリットもありますが、使用する校舎の判断材料としての優先順位は低いとのことでした。フラットな視点で使用する校舎を比較した結果、子どもにとってよいのは中部小学校と吉江中学校という結論になったようです。

（委員N）

商工会青年部の基本的な意見は、地域の皆さんのご意見を大切にして決めていただきたいということに変わりません。ただ、今回、部員にアンケートを取り、11人から回答があったので、その結果だけ報告します。

中学校に関しては、11人中8人が吉江中学校を選びました。吉江中学校は、駅に近くて交通の便がよいです。そして、少なからぬ人数の子どもたちが鉄道を利用し、高岡市内の学習塾やクラブチームに通っています。そうすると、中学校が駅から遠くなるのは不安であるほか、福光駅前にはスーパーもあって人が集まりやすいということで、待機場所という環境としても、中学生にとっては安心感があるという意見が多かったです。あとは、将来的なまちづくりを考えたときに、そのような場所に教育機関を残したほうがよいという意見も多かったです。一方、福光中学校がよいという意見としては、福光体育館があって連携が取りやすいといったものや、母校であるといった住民感情的のものが多かったです。

小学校に関しては、11人中9人が中部小学校を選びました。理由としては、長寿化工事が終わったばかりだからというものや、校舎が広いので教室を利用しやすいのではというものがありました。

（委員K）

福光青葉幼稚園です。このたび、最終アンケートを取り、最後の項目で「以前のアンケートから、意見の変更はありますか」と聞きました。33人から回答がありましたが、結果として、意見を変更した人が9人もいました。

アンケート結果をお話しすると、一番多かったのは、前回と変わらず、「中部小学校と吉江中学校」で40%でした。そして、意見を変更して「東部小学校と吉江中学校」を選んだ人が大変多く、33%を占めました。なお、「中部小学校と福光中学校」を支持されている人も18%います。

「東部小学校と吉江中学校」に意見を変更した人が一番多かったのですが、その変更の理由に、「校舎見学に行き、どの校舎も設備や規模が十分にあることが分かった。そうであれば地震に対する安全性がより高く、維持管理面でも効率的な東部小・吉江中がよいと考えた。

意見が分かれるのであれば、最後は子どもたちの安全を最優先して決定していただきたい」というものがありました。また、参考資料の影響だと思いますが、「今の子どもの数は吉江地区が多いことを知ったから」という人も3人いました。そして、クマの出没を変更理由とした人も3人いて、「中部小学校は山に近く、クマ出沒地域のすぐ近くなので、子どもだけの登下校が大変心配。ここ数年、クマが本当によく出沒するので、子どもの安全を守れるのが心配。そこで平地の東部小学校、吉江中学校に意見を変更する」ということでした。

また、新しい意見として、中部小学校を支持されている方から、「2025年に報告された不審者情報は全て東部小学校下で発生しているから」というものもありました。

最初に申し上げたように、福光青葉幼稚園としては、前回と変わらず、中部小学校と吉江中学校を支持する人が一番多かったのですが、今回事務局から提示された資料をよく読まれた上で、保護者が意見を変えたというのは大きなことだと思いますので、報告します。

なお、会の冒頭でE委員からご発言がありましたが、もともと、福光青葉幼稚園は小学校を2校残していただきたいという意見を伝えてきましたので、その余地があるのかは分かりませんが、再検討できればという思いを持っています。

(委員C)

福光中部小学校PTAです。前回の第6回検討委員会から大きな意見の変更はありませんが、学校見学をされた委員の感想をいただきたいです。

(委員L)

2週にわたり、4校全てを1時間ずつ見学しました。

小学校に関しては、福光中部小学校は広く、レイアウトに幅があると感じました。教室の数が多いということは、特別支援学級や、理由があつて学校に来られない児童たちのための個室を作ることができるということなので、この要素は非常に大きいと思います。このことは、実際に見学して感じたところです。その点、吉江中学校は、福光中学校に比べて若干教室が少ないので、そのような部分では心配が残ります。

ただ、これはあくまでも施設のことを考えての意見です。そもそも、この学校統合の問題は、今後3、4年の話ではなくて、向こう10年から15年のことを想定しなければならないと思っています。今後は、福光地域だけではなく、城端地域や福野地域も交えた学校の統合も考えられています。10年後の姿を考えるならば、東部小学校が中部小学校と比べて教室数が少ないという状況はなくなるわけなので、教室数の少なさという心配はほぼなくなります。個人的には、利便性を考えると、吉江中学校下に小・中学校が両方あったほうがプラスになると考えます。

なお、中学校は吉江中学校を利用することが大前提だと考えています。これは、今後、特認校制度を利用する生徒に対し、現実的な選択肢を用意しておくことが大事だと考えているからです。将来的に、城端線が30分に1本は来ることが検討されているなかで、学校が福光駅に近いということは、非常に大きな要素であり、特認校制度を利用する生徒の選択肢としては非常に有効だと感じています。

(委員C)

私も2週にわたって4校を見学しました。感じたこととしては、小学校は、両方とも素晴らしい学校です。このような校舎で学べることは、ありがたいことだと思います。

中部小学校は新しく、きれいです。それ以外に言うことはありません。東部小学校に関しては、前回の検討委員会でもお伝えしたとおり、統合時の児童数が489人、すなわち、現在の2.3倍もの数の児童が入ることを考えると、収容面では余裕がないと思います。利用

できないことはないと思いますが、今のイングリッシュルームを2つ、3つに分割し、さらに、それほど大きくない3つの部屋を特別支援学級にするという案に対しては、私は首を縦に振れないと思いました。

中学校に関しては、吉江中学校は、統合時の人数を考えると少し手狭だと感じました。ただ、東部小学校ほどは感じなかったです。過去20年をみても、吉江中学校は1学年92人が最大でしたが、統合すれば、現在の小学6年生が通常級だけで106人になります。そうになると、学年フロアに4クラス目を作ることになりますが、それでも、そこまで圧迫される感じはありませんでした。ただ、もし特別支援学級の人数が多かった場合、どのスペースを利用するのかという懸念は、少し抱きました。

一方で、福光中学校はすごく広いです。感じたこととしては、校長室や保健室が別棟にあって、教室等とは離れており、多感で心が揺れ動きやすい中学生や、友達関係で悩み、配慮が必要な子どもたちを受け入れてもらいやすい環境になっているということに、大きなメリットを感じました。

(委員J)

福光かがやき保育園です。私たちも、10月29日に行われた東部小学校下の関係団体での話合いに参加しました。その後、11月2日に福光かがやき保育園の役員で話合いを行いました。統合後の小学校の数は1校にするという現状は分かっていますが、福光かがやき保育園は、もともと小学校は2校がよいという意見でしたので、もし留まれるのであれば、もう一度その話をさせてもらえたらありがたいという意見が出てきました。

また、現状の子どもの数で、なぜ統合を急がないといけないのか分かりづらいという意見がありました。今、統合しなくてはならないという理由が不透明に見えます。皆さんに余裕があり、もう一度話合いをする機会があればありがたいという気持ちをお伝えします。

(委員長)

各地域や団体で色々ご意見があるようですが、南砺市全体の子どもの数が大幅に減少する傾向は否めないと思います。ただ、今の段階で全ての学校を1校にするのは、財政面も含めて難しいと思います。しかし、近い将来に、小学校・中学校ともに1学年1学級になるとすれば、子どもたちにとって非常にマイナスになります。例えば、中学校では、学級数が少なくなれば、全教科の教員が揃いません。また、あってはならないことですが、学級の中でいじめが起きたり、仲間外れがあった場合、1学級では逃げ場がありません。複数の学級があれば、クラス替えなどで人間関係の切替えができます。

この検討委員会の趣旨は、「子どもたちの教育環境をよりよくする」というところから始まっています。冒頭で、「もう一度立ち止まって戻らないといけない」というご意見もありましたが、すでに6回も検討委員会を開催し、協議を進めてきたわけです。中立的なところから見ても、これ以上立ち止まっても一体どこに話がいくのか、まだ10回も20回も話をしないといけないのかと考えてしまいます。

例えば、かつての福野地域では5つほどの小学校が1つに統合し、当時の親世代は色々心配したと思います。しかし、今となっては、通学についての問題は特に聞かれません。そう考えれば、この先のことを考えたときに一歩前に進めばいかがでしょうか。また、教育委員会の思いもお聞きできればありがたいです。

(教育長)

福光地域の子どものことを真剣に考え、今まで6回にわたって協議を積み上げてきたわけです。教育委員会の提案とは違った形で、統合時期を早めたことも、きちんとした手続

を踏んだ上で決定しています。ですので、使用する校舎を決める段階になって、これまでに決定したことをご破算にするのは、やはり違うと思います。

統合後の学校数を含め、自分の意見や思いが通らないこともあったと思います。しかし、それを飲み込みながら、福光地域の子どもたちにとってよい環境にするにはどうしたらよいか、そして、どうすれば地域の皆さんに愛されながら通えるような学校にできるかについて、委員の皆さんで真剣に議論し、結論を出しながらここまで来たわけです。教育委員会としては、これまでに出示された結論の上に立ちながら、使用する校舎を決める形で進めていただきたいと考えています。

(委員長)

この検討委員会では、小学校と中学校をそれぞれ1校ずつにして学校規模を維持するという方向で協議を進めてきましたので、その点は、私も教育委員会と同じ考えです。

それから、色々と住民感情があると思います。委員の皆さんもご認識されていると思いますが、今、我々が協議しているのは、「どこの校舎を使うか」ということであり、「どの学校に統合するか」ということではありません。例えば、吉江中学校の校舎を統合中学校の校舎にすることは、福光中学校を吉江中学校に統合するということではありません。対等に統合し、校舎はどこを使うかということです。小学校も同じです。福光地域としての小学校を作り、校舎をどこにするのかという話です。

20年後には福野中学校の建替え時期がやってきます。その時に、今までどおりに各地域に新しく学校を建てるのか、それとも、その時の子どもの数に鑑み、例えば、平野部に中学校を1校建てるのかといったことは、それこそ時間をかけて段階を踏み、その時代の人たちに考えてもらわなければならないと思います。ですので、この検討委員会では、今現在を生きる子どもたちにとって何がよいのかということを、今後15年～20年のことを踏まえつつ、協議いただきたいと思います。

福光地域の小学校と中学校は、それぞれ1校ずつにすることはもう決めたことですから、この検討委員会が出すべき結論は、あくまでも福光地域の統合校の校舎をどこにするかということではないでしょうか。

(副委員長)

教育委員会としての考えはあるのでしょうか。

(教育長)

皆さんのご意見をお聞きすると、校区単位ではなく、福光地域全体に携わる立場である委員のご意見は、現在の福光中学校区と吉江中学校区に1校ずつという意見が大半を占めています。一方、校区単位で携わっている委員のご意見は、ほとんどがご自身の校区を選ばれており、むしろ、そう思われるのは当然のことだと思います。

その上で、福光地域の住民全員に愛される形で子どもが育つ環境を作るためには、現在の福光中学校区と吉江中学校区に1校ずつ配置することが望ましいと考えます。そして、使用する校舎の意見を聞くと、小学校は中部小学校のほうが良いという意見が大半を占め、中学校は吉江中学校が良いという意見が大半を占めています。

全員が思ったようにはならないかもしれませんが、福光地域の色々な場所に住んでいる子ども们的ことを考えると、中部小学校と吉江中学校の校舎を使用することが、教育委員会としては望ましいと考えます。

(委員長)

満場一致というのは難しいと思いますが、各団体の意見を踏まえると、小学校は中部小学校、中学校は吉江中学校ということになります。ほかにご意見があればお願いします。

(委員D)

南部小学校区全体としては、小学校と中学校は同じ地区がよいという意見が圧倒的に多く、そのほうが送迎もしやすいとのことでした。皆さんには、このことを踏まえて議論していただきたいと思います。また、個人的な意見ですが、JRを含めた公共交通機関が充実している場所にあるのもよいと思います。

(副委員長)

初めて教育委員会の考えも出てきたので、もう一度各団体に持ち帰り、それぞれ確認されたいでしょうか。地域づくり協議会のなかでも同意が取れておらず、聞いていないという地区もあります。

(委員長)

時期を考えれば、次回の検討委員会では、いよいよ提言書を確認することになると思います。今回の検討委員会で結論を出さないと、福光地域の学校統合が遅れることになります。

自分の住むところの近くに学校があれば便利だというのは当然ですし、それに越したことはないです。しかし、片方の校区に学校を寄せるとなると、全部遠いところの学校に行かないといけない子どもが出てきます。

子どもたちが小・中学校を通して、福光地域全体で育ち、福光地域全体で子どもを育てようという考え方はどうでしょうか。結論ありきみたいな言い方になりますが、今の段階で多い意見のように、小学校は福光地区で勉強し、中学校は吉江地区で勉強すれば、小・中学校合わせて福光地域全体で育ててもらったということになります。このような考え方が住民感情からしても望ましいと思いますが、いかがでしょうか。

中学校は吉江中学校の校舎を、小学校は福光中部小学校の校舎を使うということで結論を出してもよろしいでしょうか。

(委員N)

地域の方にきちんと承認された意見が上がっていないのではないかと懸念について、副委員長からもありましたので、一度地域づくり協議会のなかで話をされたいかがでしょうか。

(委員長)

この検討委員会としての結論を出し、それをもう一度各団体に伝えていただくということでしょうか。そうであれば、もう一度、検討委員会を開催することになります。

(副委員長)

重要なことですので、「今回の委員会では、使用する校舎についてこのような提案が出ました」ということを、各団体に持ち帰り、それで問題ないかどうか確認すべきではないでしょうか。そもそも、使用する校舎について、今日の委員会で決めることになっていましたか。

(委員長)

前回の検討委員会でも、各団体の意見を委員の皆さんが代表して述べていただきました。その際、校舎見学が必要ではないかという意見や、その際に出た意見を各団体に持ち帰り、再度確認した上で、本日の第7回検討委員会に来ていただきたいとお話ししています。

もしも、もう一度各団体の意見を聞くというのであれば、「統合校の使用する校舎については、中部小学校と吉江中学校という方向で進める」ということを、各団体に伝えていただき、それでよいか念押ししてもらった上で、決めるという形になります。教育委員会として、それで問題ないでしょうか。

(副委員長)

初めて教育委員会からの提案が出たのですから、持ち帰って念押ししないといけないのは当然のことだと思います。また、初めて教育委員会の意見が出たので、これを尊重しないとはいけません。

(教育長)

教育委員会の意見というよりも、皆さんの意見を集約し、お互いの校区の了解を得られ、そして子どもにとっても一番よいと考えた案をお出ししました。

今回の検討委員会で「統合校の使用する校舎については、中部小学校と吉江中学校で進める方向になった」という旨を、各団体にお伝えいただければと思います。それだとどうしても問題がある場合は、検討委員会に伝えていただく形とさせていただきます。

(委員長)

話の方向を踏まえると、統合校の使用する校舎は中部小学校と吉江中学校になります。この案をもとに、事務局で提言書を作成し、最終的に皆さんで確認いただく形をお願いします。

また、後から知らなかったと言われることがないように、「統合校の使用する校舎については、中部小学校と吉江中学校という方向で進める」ことを各団体で周知していただき、了解をいただきたいと思います。当然、反対意見もあると思いますが、福光地域全体でどうしていくかという議論をしていますので、この点をご理解ください。

それでは確認します。前回を含め、2回にわたり、統合校の使用する校舎について意見を出してきました。満場一致でまとめることはできませんでしたが、教育委員会の提案も踏まえ、統合小学校の校舎は福光中部小学校を使い、統合中学校の校舎は吉江中学校の校舎を使うという方向で、事務局には提言書を作成していただきます。それを、次の第8回検討委員会で提示いただき、最終決定を行います。繰り返しますが、最終決定を前に、各団体で「統合校の使用する校舎については、中部小学校と吉江中学校という方向で進める」旨を伝え、了解をいただきたいと思います。

5 次回委員会の日程

(委員長)

次回の検討委員会の日程等について、最終確認をお願いします。

(事務局)

今回は1月中旬をメドに開催したいと考えています。12月までに事務局で提言書の草案を作成し、委員の皆さんにお送りします。

(教育長)

12月中に提言書の案を作成し、委員の皆さんに見ていただいた上で、ご意見をいただき、直すべきところは直し、1月の検討委員会で確認したいと思います。それまでの間に、使用する校舎の方向性について、所属される団体でご周知いただき、ご承認いただけるようにお力添えをいただけると助かります。

6 副委員長挨拶

(副委員長)

今回の委員会で初めて教育委員会の意見が出ましたので、それも踏まえながら、慎重に進める必要があります。各団体できちんとフィードバックし、次回の検討委員会でしっかりとまとめていただきたいと思います。